

公表 2025年度 事業所における自己評価結果(児童発達支援)

事業所名		うめだ・あけぼの学園			公表日 2026年2月10日		
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	2025年度 工夫している点	2025年度 課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	42	4	6	<p>利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切である ※内外別</p>	<p>パーティションを活用して療育室を区切り、グループ人数を調整するなど、安全で適切な環境づくりに努めています。法的基準は満たしつつも手狭な点を補うため、使用スケジュールを複数方法でこまめに確認し合ったり、構造化などを行っています。</p>	<p>雨天や猛暑で園庭が使えない場合、ホール以外にも体を動かせる空間を工夫していきたいと考えています。部屋の広さや動線に改善点はありますが、1人1人を丁寧にみる時間や空間への配慮を引き続き大切にしています。</p>
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置数は適切であるか。	31	9	12	<p>利用定員やこどもの状態に対して、職員の配置数は適切である ※内外別</p>	<p>活動準備や通園バスへの移動で不足が出ないよう、役割分担を工夫しています。必要に応じて室や部を越えて協力し合い、契約職員の手も活用して運営を支えています。欠員がある中でも、連携しながら業務を円滑に進めています。</p>	<p>新入園児が多い時期や個別対応が必要な場合、職員の急な休みに備え、全園で協力し対応していきます。余裕のある配置やバックアップ体制の整備は引き続き進めています。</p>
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	43	6	3	<p>生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された。情報伝達等、環境上の配慮が適切にされている ※内外別</p>	<p>矢印などを用いた視覚的なわかりやすさを工夫し、見通しを持てる環境づくりがされています。視覚的構造化の充実に向け、スペースデザインチームの検討やマンスリーワークでの情報共有など、日常的に意識した取り組みが進んでいます。生活動線にも配慮しています。</p>	<p>今回、この自己評価で具体的な意見が上がってきています。それぞれ、スペースデザインや各種該当するチーム・委員会で情報共有を行い、環境整備への対応について検討していきます。</p>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	41	7	4	<p>生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっ。こども達の活動に合わせた空間となっている ※内外別</p>	<p>特定の子への配慮だけでなく、誰にとっても過ごしやすい環境づくりを心がけています。日々の掃除や定期的な換気、空気清浄機の稼働、冷暖房の調整など衛生管理にも努め、クリーンデイの実施や雑巾交換なども定期的に行っています。</p>	<p>衛生状態について意見がありました。水滴の拭き取りや注意喚起が不十分な場合があり、職員の衛生意識や環境管理への責任感を高め、清掃や療育室の計画的な使用などの改善に取り組んでいます。</p>
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	45	2	5	<p>必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている ※内外別</p>	<p>しきりの設置や医務室を利用して幼児向けに大人の見守りのもと、休憩ゾーンを適宜設定しています。用途に応じて使いやすい空間づくりがされており、使用状況もわかりやすくしています。また、クラス内には一人で慣れるための個別スペースも確保されています。</p>	<p>子どもの発達や心理的ニーズを的確に捉える感度を高めることが重要であると考えます。スペースデザインチームの取り組みや、構造化などの考え方を大事にして、改善できる点について取り組んでいきます。</p>
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	40	1	11	<p>業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している ※内外別</p>	<p>人事考課制度の実施、朝礼で重要事項を周知、意見や不安を伝えやすい環境を整えています。期日の設定やIEP作成時間の保障、定期会議での進捗確認も行われ、組織全体で目標達成に向けた連携が図られています。</p>	<p>よりよい支援をめざし、必要に応じて一人一人の業務改善や効率化と、学園全体としての業務改善や効率化を図っていきます。</p>
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	46	0	6	<p>保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握し、その内容を業務改善につなげている ※内外別</p>	<p>ガイドライン自己評価や第三者評価、療育アンケートや面談、意見箱など多様な方法で保護者の意見を丁寧に聞き取り、関係者全体で共有する仕組みが整っています。保護者の意見を学びに変えています。保護者の意向を反映する体制が構築されています。</p>	<p>引き続き、保護者の方が日常的に意見を伝えられるよう、これからも工夫を行っていきます。</p>
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	38	2	12	<p>職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている ※内外別</p>	<p>面談をはじめとする様々な機会を設け、職員が意見を伝えることができている。</p>	<p>日々のコミュニケーションを大切にし、意見が出しやすい職場を目指しています。</p>
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	47	0	5	<p>第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている ※内外別</p>	<p>今年度、第三者評価を実施しました。結果については今後公表しますが、回答率向上のための呼びかけも行いました。</p>	<p>結果はこれからの公開となりますが、第三者評価としていただく意見や提案を真摯に受け止め、必要な業務改善を実施していきます。</p>

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	49	1	2	<p>職員の資質の向上を行うために、研修を受講する、法人内で研修を開催する機会が確保されている</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>研修の時間が確保され、参加できなかった職員には動画視聴等に対応しています。参加履歴の把握や職員の意向を踏まえ、公平に受講機会が提供される仕組みを整えています。多角的な視点や方法で研修をシステム化しており、職員が継続的に学べる環境が整っています。</p>	<p>新採用の正職員にはスーパーバイザーをつけています。先輩職員の個別支援活動の見学も時間配慮しながら進め、職員全体の成長につなげています。人員配置では、2年以上の正職員を外部研修に送り出せるよう配慮しています。虐待防止や人権、うめだ・あけぼの学園の基本的な考え方に関する研修などは、当日不在の職員や契約職員も含めて配信するようにしています</p>
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	48	0	4	<p>適切に支援プログラムの作成、公表されている。 ※学園では「発達支援課程」を作成しています。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>全体での見直しや共有の時間を設けることで、職員間で共通認識を持てるようにしています。読み合わせの時間も設け、全職員が内容を確認できるよう工夫しています。必要な内容はガイドラインに沿いつつ、学園のオリジナリティも加え、総合的に作成されています。</p>	<p>適宜見直し、定期的な周知と活用を行います。全職員が理解し、支援に活かせるようにします。</p>
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	48	0	4	<p>個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどものニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>検査結果を踏まえた上で支援計画を作成しています。必要なアセスメントを計画的に実施し、チームアプローチを活かすことで、スーパーバイズ(SV)やコンサルテーションも加えて支援を行っています。</p>	<p>引き続き、お子さんとご家族のニーズを丁寧にアセスメントしながら、支援計画作成を行っています。必要に応じてフォーム(書式)の改訂も行っていきます。</p>
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	46	0	6	<p>児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われている。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>関係者同士が日々の療育について情報を共有しており、クラスやグループごとにミーティングの時間も設けられています。運動担当など他担当者とも話し合いながら計画を作成し、会議や紙面を通じて関係者間で情報共有を行う体制が整っています。</p>	<p>引き続き、複数の職員の意見を反映させていながら、支援計画の作成を行っています。意見の反映のために必要な時間については、業務の効率化なども考慮し、学園として検討していきます。</p>
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	46	0	6	<p>児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われている。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>発達支援体制計画は定期的な見直しの機会となっています。毎日の振り返りで情報を共有し、介入前には確認を行うようにしています。必要に応じてスーパーバイズやコンサルテーションも実施し、毎月確認を重ねながら支援に臨むことで、計画の精度と実践の質を高めています。</p>	<p>個別支援計画は作成自体が目的とならないよう工夫が必要と考えています。関わる全職員への共有の仕組みをさらに整え、丁寧に共有を行っているよう、実施プロセスの工夫も引き続き行っていきます。</p>
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	42	1	9	<p>こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>年に1度、発達評価(心理)を実施し、保護者や担当者の要望に応じて運動・言語・食事などのアセスメントも行っています。個人評価に加え、グループ単位での評価も行われています。</p>	<p>引き続き、アセスメントの活用を進めていきます。アセスメント担当者の育成についても、計画的に行っていきます。</p>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	48	0	4	<p>児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>児童のニーズに応じた支援をより確実に満たすため、IEPのフォーマットを見直し、修正を行っています。これにより、計画作成や実施の精度向上を図っています。</p>	<p>支援力向上に向け、職員の対応力の育成や支援力向上を目指していきます。変化するニーズに柔軟かつ適切に応えられるスキルや知識を体系的に身につけるような人材育成を続けていきます。</p>
適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	44	0	8	<p>活動プログラムの立案をチームで行っている。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>療育の前後にミーティングや振り返りの時間を設け、プログラム実施後に内容を室内で共有する体制が整っています。質を維持するためにフォーマット化や計画化が行われており、チーム単位だけでなく室全体で情報や評価を共有できる仕組みが構築されています。</p>	<p>活動プログラムの本質的な意義や意味を職員間で共有し、互いに学び合う体制の整備を続けていきます。</p>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	41	1	10	<p>活動プログラムが固定化しないよう工夫している。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>定期的なスタッフミーティングや年間計画の見直しを行い、活動内容や時期の改善を適宜実施しています。季節や子どもに合わせた工夫を取り入れ、相談やコンサルテーションも活用しながら進めています。</p>	<p>活動プログラムの内容のさらなる充実を目指します。</p>
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	47	0	5	<p>こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われている。</p> <p>● はい ● いいえ ● 不明</p>	<p>個別と集団の担当者間で情報共有を行い、相互に相乗効果が生まれるよう工夫しています。地域生活支援コースでも、保育所等訪問支援がセットになっており、必ず集団支援の観点を取り入れる体制が整っています。</p>	<p>各室で工夫が行われています。引き続き、子どもの発達特性に合わせた支援を行っているよう、学園として取り組んでいきます。</p>

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	46	0	6	<p>支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日、いて確認し、チームで連携して支援を行っている</p>	話し合いの時間を設け、分担を視覚化して共有しやすくする工夫が行われています。部門間の打ち合わせ、室会での確認を通じて情報共有を行っており、朝礼や室会の時間配分も工夫され、打ち合わせの確保が以前より改善されています。	定例の会議以外の打ち合わせに必要な時間や作業時間の捻出や業務の効率化については、ICT化を進めるなど、学園全体の課題として、取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	46	0	6	<p>支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日、の振り返りを行い、気付いた点等を共有している</p>	グループ終了後にはミーティングの時間を設け、実施できなかった場合も別途時間を確保して行っています。	効率的に記録・共有できる方法や、必要に応じてタイムリーに室長・管理層が情報を共有できるシステムが求められます。会議運営や情報共有の意識を学園全体で高めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	46	0	6	<p>日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている</p>	HUG(ハグ)を導入しており、情報共有や支援のねらいや実施するプログラム等の確認を簡便に行える仕組みとして活用されています。職員間で効率的な情報伝達や調整を支援するツールとなっています。	HUGの導入をおこないました。引き続き、丁寧な記録を目指し、支援の充実に向けて取り組んでいきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	49	0	3	<p>定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画、その必要を判断し、適切な見直しを行っている</p>	子どもや保護者の様子、要望などを正確に把握し、職員間で共有できるよう、報告や情報共有を丁寧に行っています。これにより、支援の質や対応の適切さを維持する体制が整えられています。	課題解決に向けて、対応プロセスをある程度定型化する取り組みを行っています。これにより、対応の抜け漏れを防止、職員間での共通理解や迅速な対応を取れるようにしていきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	43	0	9	<p>障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している</p>	個別支援計画を指定相談支援事業所に交付しています。これにより、地域との連携を強化し、子どもや家族への支援の質を高める取り組みが進められています。	引き続き、お子さんのことがよくわかる担当者やその他の職員が、サービス担当者会議や関係機関の会議に参加し、支援の充実を図っていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	47	2	3	<p>地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉と連携して支援を行う体制を整えている</p>	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っています。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	中核拠点型児童発達支援センターの役割の1つとなる地域のインクルージョン推進実現のために、多様な支援メニューを準備し、インクルーシブな社会の構築の一端を担っていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っています。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	48	0	4	<p>併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクル... 支援内容等の情報共有と相互理解を図っている</p>	小学校との連携は定着しており、児童が小学校での生活をイメージできるよう配慮して引き続き書を作成しています。引き続き書は一人一人の子どもに合わせた情報提供とし、円滑な移行支援が実施されています。	幅広い専門性に基づく発達・家族支援や地域事業所へのスーパーバイス機能を持つ中核拠点としての機能充実に向け、職員派遣を継続し、支援スキルのさらなる向上を目指していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	46	0	6	<p>就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校... 支援内容等の情報共有と相互理解を図っている</p>	学園の取り組みや役割、機能を知る機会として見学説明会を実施しています。また、支援力向上に向けた研修を行っています。関係諸機関が実施する研修や会議体などにも積極的に参加することで、地域のネットワークづくりを心がけています。	地域の子育て会議等へ積極的に参加している
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	41	0	11	<p>地域の他の児童発達支援センターや児童発達支援... 地域全体の質の向上に資する取組等を行っている</p>	職員に対して希望する研修内容を聞き取り、参加機会を調整しています。朝礼で研修情報を周知しています。計画的に研修や派遣を実施することで、職員のスキル向上や支援の質の維持に努めています。	各種会議や活動を通じてお子さんやご家族を理解し、地域で安心して暮らせる支援を進め、行政等への意見発信で暮らしやすい社会を目指します。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	46	1	5	<p>質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等... 助言を受けたり、職員を外部研修に参加させている</p>	学園は（自立支援）協議会子ども部会や、地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	45	0	7	<p>学園は（自立支援）協議会子ども部会や、地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している</p>		
	31	(31は、事業所のみ回答)						
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言を受けられる機会を設けているか。						

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	44	4	4	<p>保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がある</p>	「いんくる保育」は法人内で積極的に実施されており、毎日通園室では月に一度取り組んでいます。青井保育園での園庭活動も実施され、インクルーシブ教育の意義を感じられる活動となっています。また、地域のイベントや学校・保育園の行事への職員参加が増えれば、子どもや地域とのつながりがさらに深まると考えられます。	日々の取り組みを通じ、地域のインクルージョン推進の中核として、多様な支援を提供し、お子さんの地域生活充実と社会のインクルーシブ化に貢献します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	47	0	5	<p>日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こども達の状況や課題について共通理解を持っている</p>	個別、グループ、クラスいずれの場合も、保護者と関わる時間を計画的に組み込み、子どもの状況や支援内容の共有が適切に行える体制を整えています。	共通理解の重要性を職員で周知し、日々の振り返りや園内スーパーバイズ、研修を通じてコミュニケーションや面談力の向上を目指します。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	51	0	1	<p>家族の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し、参加できる研修の機会や情報提供等を行っている</p>	保護者の自主参加によるペアレントトレーニングに加え、親子グループごとに担当職員が出向きペアトレを行うなど、多様な形で支援と連携を図っています。	引き続き、保護者や社会のニーズに沿った検討を行い、講座や行事の企画を行い、ご家族への支援を行っています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	48	0	4	<p>運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている</p>	見学説明会、重要事項説明や契約時など、利用開始前や利用開始時に、保護者にわかるよう説明することを心がけています。変更が生じたときには、職員朝礼など全体で共有するようにしています。	引き続き、保護者にどのように伝えているか、何を説明しているのかについて、職員にも適宜周知していきます。
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	48	0	4	<p>児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けている</p>	児童発達支援計画の作成に当たり、お子さんや保護者の意思を尊重し、お子さんの最善の利益の優先しつつ、お子さんやご家族の意向を確認するよう心がけることができています。	職員一人一人の支援力をあげていながら、引き続き、保護者とお子さんの意向を丁寧に確認していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	49	0	3	<p>「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている</p>	多くの職員がこの項目について「はい」と答えています。計画を示し丁寧に保護者と話をしたりしながら、同意を得るようにしています。	これからも、質の高い支援のための支援計画の作成を、お子さんの意向も大事にしながら、保護者と一緒に行っていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	51	0	1	<p>定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談、面談や必要な助言と支援を行っている</p>	担当者や室長との面談を随時実施しています。わからない点は室長やアセスメント担当者へすぐ相談し、判断の迷いを残さないようにして進めています。	保護者が相談できる仕組みの周知や、安心して相談できる状況づくり、安心して相談していただける職員のスキル向上などを行っています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	47	0	5	<p>父母の会の活動を支援することや保護者会等を設け、同じで交流する機会を設ける等の支援をしている</p>	保護者が交流できる機会づくりを重視し、父母の会終了後は自主グループや保護者連携係が立ち上がり交流機会の提案や支援を工夫しています。行事前のボランティア募集や各グループ活動を学園として積極的に後押ししています。	保護者連携係の取り組みの充実や、保護者、地域のいろいろな活動の情報共有を行い、各種交流が活発になるよう努めます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	50	0	2	<p>こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応、れがあった場合に迅速かつ適切に対応している</p>	必要な情報や連絡事項は朝礼で周知し、職員間で共有漏れがないよう工夫しています。	引き続き、全園をあげて、保護者やお子さんからの希望に沿って、相談や申し入れに対応していきます。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	47	0	5	<p>定期的に通信等を発行することやHPやSNS等を活用し、最新の情報をこどもや保護者に対して発信している</p>	セコムメールを活用して情報を配信するとともに、Instagramも併用することで、保護者への周知をより分かりやすく行うよう工夫しています。	発信ツールは広がっていますが、内容についてはさらに充実を目指します。ホームページ、Instagramなど、学園の取り組みをタイムリーに多くの方に知っていただくよう努力します。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	50	1	1	<p>個人情報の取扱いに十分留意している</p>	個人情報の取り扱いについて、共通認識を持って取り組むよう心がけています。	園内外の個人情報に関するヒヤリハット事例などを参考にしながら、個人情報の取り扱いについて、全職員が共通認識を持てるよう、引き続き取り組んでいきます。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	51	0	1	<p>障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている</p>	本人の表出の手段や段階を把握しながら積極的にコミュニケーションを図るようにしています。また、外国籍の保護者の方にはボケトーク等を活用し、意思疎通ができるよう工夫しています。	引き続き、保護者やお子さん安心して職員とやり取りできるよう、学園として取り組みを続けていきます。	

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	47	2	3	<p>事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている ※非対応</p>	<p>からしだねフェスティバルを地域住民の方に足を運んでいただく機会として開催し、できるだけ広く周知することで、地域の方に活動を知ってもらう機会を積極的に作っています。</p>	<p>ホームページやインスタグラムなどを活用し周知することで、地域の方に取り組みを知ってもらえるように心がけます。</p>
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	49	1	2	<p>事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯、とともに、発生を想定した訓練を実施している ※非対応</p>	<p>各種マニュアルを整備し、必要な訓練を年間計画により行っています。保護者の方も閲覧できるように整えています。</p>	<p>法令に則り、引き続きマニュアルの整備に努めます。必要に応じて見直しを行い、訓練なども実施していきます。</p>
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	50	0	2	<p>業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている ※非対応</p>	<p>学園では、各種BCPを準備し、様々な状況を想定した、工夫された訓練を行っています。</p>	<p>防災委員会を中心に、引き続きBCPの充実や訓練の実施を積み重ねていきます。</p>
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	49	0	3	<p>事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している ※非対応</p>	<p>学園利用にあたっては、うめだ・あけぼの診療所医師が診察を行い、医療情報、お子さんの状況を確認しています。</p>	<p>必要な医療情報について、必要に応じてタイムリーに共有できるよう、職員間の情報共有を引き続き丁寧に行っていきます。</p>
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	51	0	1	<p>食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされている ※非対応</p>	<p>学園では、お子さんの主治医とうめだ・あけぼの診療所医師の連携により、食物アレルギーのあるお子さんに給食を提供しています。</p>	<p>引き続き、食物アレルギーをはじめとするアレルギーのあるお子さんの対応を、主治医、診療所医師、学園看護師も交えながら行っています。</p>
非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	45	0	7	<p>安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練...安全管理が十分された中で支援が行われている ※非対応</p>	<p>安全計画、安全に関する各種マニュアルがあり、年間計画で訓練なども行われています。</p>	<p>引き続き、お子さんやご家族、職員が安全にすごせる取り組みを継続していきます。</p>
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	40	0	12	<p>こども安全確保に関して、家族等との連携が図られる。に基づく取組内容について、家族へ周知している ※非対応</p>	<p>家庭と共有した方が良い事案については、文書や伝言メモ、メールなどを活用して保護者に周知することで、情報の漏れを防ぎ、家庭と園の連携をより円滑にするよう工夫しています。</p>	<p>お子さんの安全確保に関する取り組みについて保護者への周知も行いながら、お子さんの安全な過ごしに向けた取り組みを行っています。</p>
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	49	1	2	<p>ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討している ※非対応</p>	<p>必要な情報や事案については朝礼で報告することで、職員間で共有漏れがないようにし、迅速かつ円滑な対応につなげるよう工夫しています。</p>	<p>ヒヤリハット対応委員会の取り組みによりヒヤリハット事例の共有を通して、事故の予防に向けて、引き続き全園を上げての取り組みを行います。</p>
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	50	0	2	<p>虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている ※非対応</p>	<p>研修機会、情報共有などを通して、職員全員で虐待防止に取り組んでいます。</p>	<p>引き続き、虐待防止に向けて高く意識を持てるような取り組みを行います。</p>
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	45	0	7	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、解を得た上で、児童発達支援計画に記載している ※非対応</p>	<p>虐待防止委員会の取り組みにより、定期的に各種アンケートや副園長・部長面談なども実施しています。</p>	<p>身体拘束について「わからない」という職員をさらに減らしていけるよう、共通認識を図っていけるような取り組みを検討していきます。</p>